

せわやがトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

一隅を照らす十島の教育

一月...初暦



十島村教育長 原口 英典



幸せの 待ち居る如く 初暦 (稲畑汀子)

そもそも、なぜ「暦」(こよみ)というのだろうか、これまでも疑問に思わないことはなかったが、念頭に当たり、あらためて国語辞典を引いてみた。

一日一日を読む数字をまとめたものが暦とした時、国語辞典によると、それを「日読み」と名付けたらしい。それを「日読」(かよみ)と読み、「かよみ」が「こよみ」に変わったらしい。

順序よく並べられた数字。一年中の月日を、少しの狂いも不規則もなく、一日単位で確実に追っていく数字の塊。金子みすゞさんの童謡詩に「暦と時計」というのがある。

暦があるから / 暦を忘れて
暦をながめちゃ、 / 四月だというよ。



暦がなくても / 暦を知ってて
りこうな花は / 四月にさくよ。

実態のない(と思いたい)暦に、それでも追われることの多い日常。そんな中であって今日という日の先には、何か今日と違った小さな「幸せ」が待っているような...。そんな思いに包まれながら、今年の暦を改めてめくったり、ながめたりしている。「明日こそは!今年こそは!」

暦を意識しないまでも、暦にとらわれ、にもかかわらず暦を忘れていた私。暦を知らない草花は、それでも体内暦で、その時期になると花を咲かせる。暦を発明した人の知恵もさることながら、暦に頼らない自然の持つ生命の暦の不思議には、さらに感服せざるを得ない。

梅の種には、梅の実を宿す機能が組み込まれ、基本的には、スイカの実を宿さない。梅の種は、梅の実を。スイカの種は、スイカの実を。ということは、私という種には、まぎれもなく、私という実が必ずなるべく、天が与えてくれているはずだ。今年の暦を観ながら、そんなことを思う年頭であった。

2014.1.9

【十島村「新成人を祝う会」】 ～ふるさとを誇りに!～



1月13日(月)、十島村役場にて、「新成人を祝う会」が開催されました。今年の本村の成人式対象者数は、13名で、当日は7名に出席いただきました。肥後正司村長からは、「失敗を恐れず、トカラで育ったことを誇りに思い、生きてほしい。」日高利成トカラふるさと会会長からは「十島村で培った『トカラっ子やればできる』の精神で困難を乗り越え、明日の日本を背負い、世界で羽ばたいて下さい。」とのメッセージがたむけられました。

新成人の決意のことばに共通したのは「感謝」で、人として生きていく上で何よりも大切にしたいことばとして輝いていました。

また、当日は、川内高校野球部監督の中迫先生の講演もあり、家族、中学時代の恩師・仲間との久々の再会に会場は大いに盛り上がりしました。

灯 シリーズ——十島の学校にやってきて 諏訪之瀬島分校 中1年 菅野 悠里

私が四月に十島村にやって来てから、もう十か月が過ぎようとしています。

私は、以前住んでいた場所に小学一年生の頃から六年間住んでいました。六年間もいると、友達やその地域から離れてしまうことはすごく悲しくつらいことでした。奄美大島から引っ越して来たその場所も、始めは寂しくても、振り返ってみると、すごく一日一日が楽しい日々であったと、今は思うことができます。私は、そういう風に思えたらいいなという思いで諏訪之瀬島にきました。

初めて諏訪之瀬島に来た日は大雨でした。分校の児童生徒や島民の方々はいにくの天気の中、私たちを温かく迎えてくださったことを、今でも覚えています。

その日からあつという間に十か月が過ぎ、色々なことがたくさんありました。まず、様々な行事が思い出に残



っています。その中に、自然との触れ合いや、島民の方々との交流があります。十島村、諏訪之瀬島ならではの、他ではなかなかできないことをたくさん体験することができました。学校生活では、初めての中学校生活だったので、初めの頃は大変だったこともありましたが、でも、人数が少ない分校だからこそできることがあり、活気のある分校にするためには、一人一人の力や活躍が必要である、ということも学びました。

私には、まだまだこれから学ぶことが本当にたくさんあります。諏訪之瀬島に住む間、私は、一回りも二回りも成長できるように頑張りたいと思います。

絆 シリーズ——山海留学生として学ぶ 口之島で学んだ感謝の心 ② 肥後 杏寿 現在高3年生<堺市>(口之島中)

まずは、少人数の授業です。私は正直、勉強が苦手でした。大阪では宿題もあまりやっていませんでした。でも、ここでは授業が二人で受けることができ、わからないところはどんどん質問できます。先生も私に合わせたプリントを準備してくださり、丁寧に教えてくださいます。私は、口之島に来てから、宿題もするようになり、学習面で一つのことを集中して取り組むこともできるようになったと思います。そのおかげで、私は初めて作文で賞をとることもできました。鹿児島中央駅の特設広場で、大勢の前で表彰され、税の作文パンフレットに自分の作文が載り、大阪の先生から「すごいね、見たよ」と電話が来ました。自分にとって初めての晴れ舞台。本当に口之島に来て良かったと思いました。

また、学校のヤギの世話をすることもできました。私は小さい頃から、動物看護師や獣医など、動物の世話をする職業に就きたいと思っていました。口之島小中学校ではトカラヤギを飼っていますが、メスヤギのちびが二回も赤ちゃんを産んでくれました。赤ちゃんヤギが苦しんでいるのを目にすると、「助けてあげたい」という気持ちになりました。毎日乳瓶でミルクをあげると、ぐったりしていた赤ちゃんが飛び跳ねるまで元気になり、すごく嬉しかったです。高校でも動物について学んだり疑問に思ったことを調べたりして、夢の実現に向けて努力していきたいです。(2月号に続く)

【子どもたちの作品】
「金十丸」知って (南日本新聞「若い目」H25.7.1)
宝島中学校2年 宮山 雄輝

奄美と十島の英雄、金十丸。これは、「金十丸、奄美の英雄伝説」に登場する船の名前である。金十丸は戦時中に、鹿児島から奄美までの間を生命船として活躍した。総トン数573トという小さな船でありながら、米潜水艦から逃げ、旧十島村の人々の生活の支えとなった。

僕がこの本を選んだ理由は、現在住んでいる十島村のことが書かれていたからだ。宝島も登場していて、夢中



になって読んだ。
ぼくが一番好きな場面は、対馬丸が潜水艦ボーフィンの撃沈される前日に、同じ海域で金十丸がボーフィンの魚雷攻撃から逃げる事ができたところだ。前村船長が攻撃から逃げるために行った工夫が面白く、場面を想像することができた。船内がどのような作りになっているのか、金十丸に乗ってみたいと思った。
この本には島民の暮らしも描かれている。ぜひ読んで、金十丸と十島村のことを知ってほしい。

たんじょう日 (南日本新聞「子供のうた」H25.7.4)

宝島小学校 小学3年生 今村 律佳

たのしい たのしい たんじょう日
みんなから「おめでとう」と言われるし
おたんじょう日のケーキは
うれしいし
たのしみ たのしみ
たんじょう日



十島村の小・中学校からのメッセージ ②

中之島小中学校 教諭 白川 弥栄子

離島勤務経験がなかった私は、2年前にここ中之島に赴任しました。それまで十島という地名を耳にしたことはありましたが、この地に赴任経験のある同僚は周囲におらず、十島村についての知識はほとんどありませんでした。しかし、次第に、この土地ならではの魅力の多い所とわかり、今では十島村に勤務できてよかったと思っています。

1年目は、低学年複式担任と、中学校の美術を担当した他、一人では担いきれないと思える程多くの校務分掌や、様々な行事への参加等、それまでと一変した状況に困惑したり、自分の理想とすることを果たすことの難しさに悩んだりすることの多い日々でした。そんな私を温かく励まし、支えてくださった多くの方々との出会いに、今、心から感謝しています。

中之島では、限られた地域内だけで事足りる生活なので、いつも同じ風景を目にすることが多いのですが、ここで見る風景は、日々違った表情を見せ、常に新鮮な発見や驚きの連続です。時とともに変化する海と太陽の光、雨上りの大きな虹、海上を進む船の姿、かわいい鳥たち、月明りの夜の美しさ...等いつも魅了されます。

教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ



「島の子どもたちってかわいいよ〜。」とは、私より早く離島勤務を経験した同僚から何度も聞いた言葉でした。今私は、ここ中之島で改めてその言葉どおりだと実感しています。中之島の自然の中で、明るく元気な子どもたちとふれあい、ここでしかできない経験をする事は、きっと思い出深い一生の宝物として、心に残ることでしょ。